

外国語活動

英語で自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成を目指す

外国語活動・外国語科の授業づくり

— 学習内容の系統性を踏まえた言語活動の工夫を通して —

令和元年度 外国語活動研究グループ専門研究員

多賀城市立高崎中学校 石 川 知賀子 大崎市立三本木小学校 高 橋 暁 寛

石巻市立貞山小学校 村 上 幸 平 宮城県涌谷高等学校 白 旗 緑 恵

指導主事

研究推進第一班 齋 藤 弘 美 情報教育班 高 橋 裕 之

概 要

本研究では、学習内容の系統性を踏まえた言語活動の工夫を通して、英語で自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成を目指す外国語活動・外国語科の授業づくりを提案する。小学校教員が言語活動を通して行う授業のイメージを持つために、言語活動例とその模擬授業動画、単元指導計画、小・中・高等学校の系統一覧表を作成した。研究協力校の学級担任が中心となり、これらの手立てを活用した授業実践を行った。これによって、授業者が授業づくりへの理解を深め、指導に対する不安を軽減し、授業の充実が図られた。本研究の実践を通して、自分の思いや考えを伝え合うことができる児童が育成されることが分かった。

〈キーワード〉 学習内容の系統性 言語活動 単元指導計画 活動配列表
模擬授業動画 系統一覧表 単元のゴール

1 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成29年告示）（以下「新学習指導要領」）では、外国語活動・外国語科の目標として、目指す資質・能力を「言語活動を通して」育成することと示されている。また、平成29年7月に文部科学省から示された小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックには、「言語活動は実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動を意味する」とあり、言語活動は学習を進める上で核となるものである。

みやぎの英語教育推進計画^{注1)}（以下「推進計画」）では、小学校から高等学校までの系統立った到達目標を設定し、「英語を用いて自分の思いや考えを伝え合うことができるみやぎのこども」を、目指す児童生徒像の一つとして掲げている。その手立てとして、「『身に付けたい力』を明確にした単元づくり」や「系統的な言語活動の設定」等が挙げられている。

文部科学省の調査^{注2)}によると、小学校外国語活動が高学年に導入された後、児童の高い学習意欲、中学生の外国語学習に対する積極性の向上といった成果が認められている。一方で、令和2年度からの新学習指導要領全面実施における中学年外国語活動、高学年外国語科の導入に対して、小学校

^{注1)} 宮城県の児童生徒の英語力向上に資する英語教育の充実に向け、小学校から高等学校までの系統的なみやぎの英語教育推進計画を策定し、生徒の学びの主体性を高めるとともに、教員の英語指導力向上を図っている。

^{注2)} 「小学校外国語活動実施状況調査」：平成23年度より完全実施された外国語活動の実態を把握・分析し、小学校外国語活動の充実や改善等に役立てるため、平成26年度に、文部科学省が全国の公立小学校5～6年生の児童、及び導入後に外国語活動を学んだ中学校1～2年生生徒、及び担当教員・管理職に調査したものの。

の教員は、指導に対する不安を抱えているのが現状である。また、宮城県の英語教育の実態として、教員の授業における指導力向上への意識は高まっているものの、創意工夫ある授業の実践はまだ十分とは言えない状況も見られると推進計画で報告されている。

そこで、本研究では、学習内容の系統性を踏まえた言語活動について研究を進め、言語活動を工夫した授業づくりを提案する。これによって、小学校教員が授業づくりへの理解を深め、自分の思いや考えを伝え合うことができる児童が育成されるものと考え、本主題を設定した。

2 主題・副題について

2. 1 「自分の思いや考えを伝え合うことができる児童」について

新学習指導要領解説では、「『伝え合う』とは、一方向ではなく、双方向で感情や情報についてのやり取りがある活動」と示されている。本研究では、話すこと〔やり取り〕と話すこと〔発表〕における「自分の思いや考えを伝え合うことができる児童」を次のように捉えた。

- (1) 慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に伝わるように工夫しながら、英語で自分のことを話したり、自分が聞きたいことを尋ねたりできる児童
- (2) 積極的に英語を聞いて、これまで知らなかった情報や相手の考えを知ることができる児童
- (3) コミュニケーションの楽しさを感じながら、主体的に言語活動に取り組もうとする児童

2. 2 「学習内容の系統性を踏まえた言語活動」について

「学習内容の系統性を踏まえた言語活動」とは以下の3点の要素を満たした言語活動である。

- (1) 既習表現を繰り返し活用し、児童の思考力・判断力・表現力等を高められる言語活動
- (2) 学習する単元前後の学習内容を踏まえて、単元のゴールを明確にした言語活動
- (3) 伝える相手、目的、場面・状況を明確にした言語活動

新学習指導要領解説では、小学校外国語活動・外国語科が中学校、高等学校へと円滑に接続できるよう系統的に指導計画を作成することと示されている。授業づくりにおいては、単元終末で目指す児童の姿、つまり単元を通して児童に身に付けさせたい力をイメージすることが重要であると考え。そこで、本研究では、単元を通して身に付けさせたい力を単元のゴールとして設定した。これによって、単元目標を具体化し、単元終末での児童の姿を授業者がイメージできるものと考えた。

単元全体を見通して指導計画を作成する際、学習のどの段階でどのような言語活動を行うべきかを授業者が明確にする必要がある。例えば、滋賀県総合教育センターでは、「自分の思い等を伝え合うための言語活動」として、「単元の最終活動」「授業で行う中心活動」「Small Talk^{注3)}」を設定している¹⁾。本研究では、言語活動を以下のとおり分類した。

表1 本研究の言語活動の捉え

活動名	内 容
中心活動	一単位時間の中で、最終活動に向けて設定した、中心となる言語活動
最終活動	単元終末において、既習の言語材料を活用して行う言語活動

小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックには、「発音練習や歌（中略）は言語活動ではなく練習である」と示されている。したがって、本研究では、児童が楽しむだけの活動や、単語や語句を繰り返す等の反復練習だけでは終わらないよう、一単位時間の中に中心活動を設定した。また、全ての活動を最終活動に、効果的に関連付けるよう工夫した。

^{注3)} Small Talk は、身近な話題について自分の考えや気持ちを楽しみながら伝える中で、既習表現を繰り返し使用することを保証し、その定着を図るために行うものである。また、対話の続け方を指導するためにも行われる。

3 研究の目的と方法

本研究では、学習内容の系統性を踏まえた言語活動について研究を進め、自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成を目指す外国語活動・外国語科の授業づくりを提案する。これによって授業の充実を図り、自分の思いや考えを伝え合うことができる児童を育成することが目的である。調査研究（5. 1）と開発研究（5. 2）の2つを中心に研究を進める。

調査研究では、児童と教員への意識調査を行い（5. 1. 1）、結果を分析し（5. 1. 2）、課題を整理する（5. 1. 3）。課題を解決する手立てとして、開発研究で「言語活動例」（5. 2. 1）「模擬授業動画」（5. 2. 2）「系統一覧表」（5. 2. 3）「単元指導計画」（5. 2. 4）を作成する。

上記の手立てを活用した授業を通して（6. 1）、研究協力校の教員と児童の変容を検証する。実践検証の結果から（6. 2）、どのように児童が変容したか（6. 2. 1）、授業者が授業づくりへの理解を深め、不安が軽減されたかを（6. 2. 2）、児童の振り返りシートのテキストマイニング分析や、授業者の事後アンケート等の分析から考察する。教員と児童の変容から分かった本研究の成果と（7. 1）、今後の課題を明らかにする（7. 2）。

4 研究構想図（別紙）

5 研究の実際

5. 1 調査研究

5. 1. 1 意識調査

(1) 児童

- ① 目的 小学校外国語活動の学習に関する児童の意識を把握し本研究の基礎資料とする。
- ② 実施日 令和元年6月下旬
- ③ 調査対象 登米市立石越小学校、大崎市立三本木小学校、石巻市立貞山小学校の児童
- ④ 対象者数 260名
- ⑤ 回答者数 260名
- ⑥ 調査方法 質問紙法（選択、記述）

(2) 教員

- ① 目的 小学校外国語活動の授業づくりに関する教員の意識を把握し本研究の基礎資料とする。
- ② 実施日 令和元年度小学校外国語活動・外国語研修会 6月20日（木）
令和元年度長期研修員所属校 6月下旬
- ③ 調査対象 令和元年度小学校外国語活動・外国語研修会参加小学校教員
令和元年度長期研修員所属校小学校教員
- ④ 対象者数 147名
- ⑤ 回答者数 147名
- ⑥ 調査方法 質問紙法（選択、記述）

5. 1. 2 調査結果・分析

児童の意識調査では、80.9%が「英語が好き」「どちらかというとき好き」と回答した。また、89.2%が「英語の授業を楽しんでいる」「どちらかといえば楽しんでいる」と回答した。「外国の人と話せるようになりたい」「外国の人が困っていたら案内してあげたい」という具体的な記述もあり、英語を学ぶ事を肯定的に捉えている児童が多いことが分かった。一方で、「英語で進んで友達のことを知ろうとすること」ができていると思っている児童に比べ、「英語で進んで自分の考えを伝えようとする」とできていると思っている児童は少なかった（図1）。

教員の意識調査では、88.5%の教員は「児童と一緒に楽しんでいる」と回答した。一方で、「自信を持って指導している」と回答した教員は、35.4%であった（図2）。外国語活動の授業を児童と楽しんではいるが、指導には自信がないと感じる教員が多いことが分かる。また、「授業で中心となって指導を行っているのは誰か」という設問では、「担任」と回答した教員は41.5%、「ALT^{注4)}」と回答した教員は32.0%という結果だった。

指導に対する自信の有無と、中心となって指導している授業者のクロス集計を行った（図3）。その結果、自信がある教員とない教員との間には、中心となって指導している授業者に差異があることが分かった。指導に自信がない授業者ほど、ALTが中心となって授業を行っているという現状である。そこで、「授業を行うにあたって必要と感じるもの」を調査したところ（図4）、最も多いのがティーム・ティーチング用学習過程だった。次に多かったのが言語活動の例が分かる動画だった。

新学習指導要領解説には小学校中学年から高学年、中学校、高等学校への接続を図ることを重視し、「総合的、系統的に扱う教科学習を行う」とあり、授業者は学習内容の系統性を把握する必要がある。しかし、「単元や学年の系統を意識して授業づくりをしている」と回答した小学校教員は45.4%と半数以下だった。小学校現場では学習内容の系統性を意識するまでには至っていないということが分かった。

5. 1. 3 考察

進んで自分の考えを伝えようとしていることができていると思っている児童が少ないという調査結果から（図1）、授業で自分の思いや考えを伝え合う活動が適切に設定されていないことが考

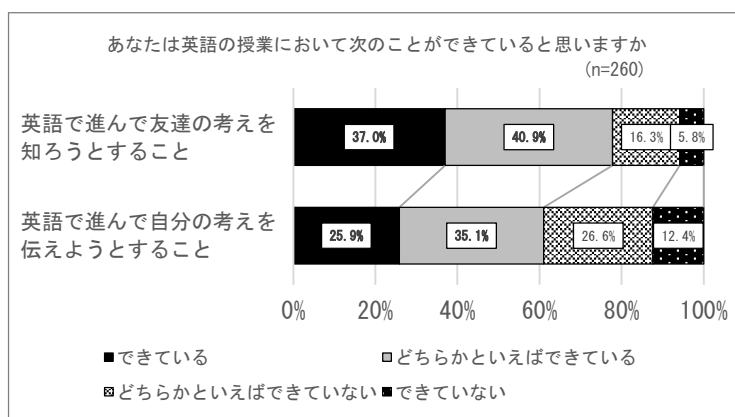


図1 外国語の授業においてできていると思うこと（児童の回答）

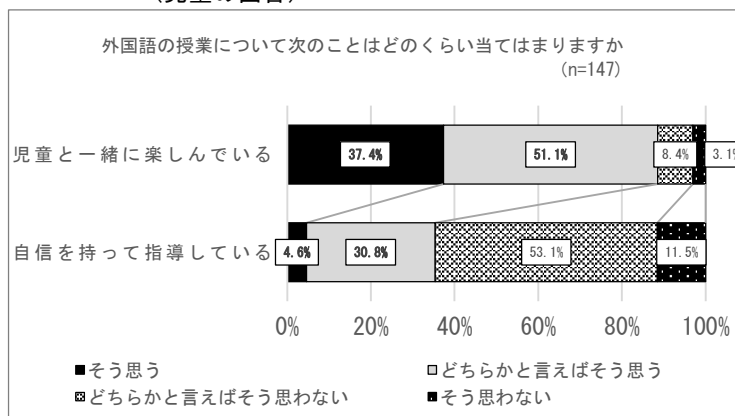


図2 外国語の授業について当てはまること（教員の回答）

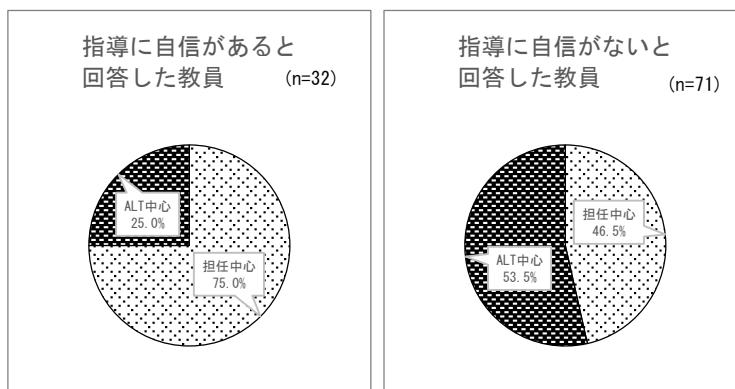


図3 自信の有無と指導の中心となっている授業者の比較

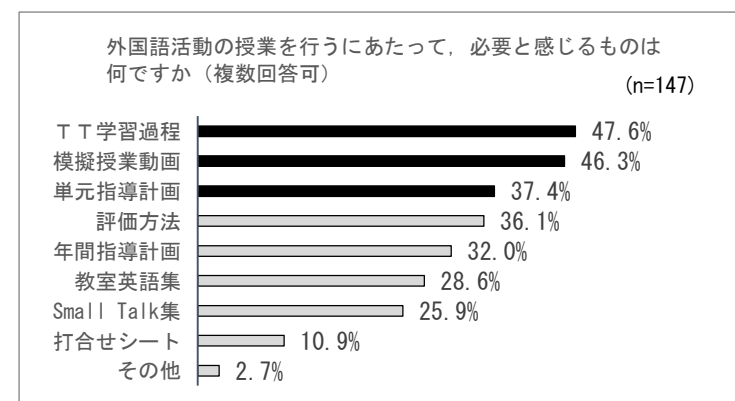


図4 現場の教員が必要としているもの

注4) Assistant Language Teacher の略で外国語を母語とする外国語指導助手を指す。ALT の他に日本人で英語が堪能な語学支援員が外国語の授業の支援を行っている場合もある。

えられる。実際に、教員の意識調査で「型にはまった授業になってしまっている」「ゲームやチャンツを多く取り入れ、楽しい活動にしている」という記述も見られた。以上のような現状から、授業者が児童の実態に合わせて言語活動を工夫し、実践することが課題である。

外国語の授業を児童と楽しんでいいるが指導には自信がないという教員の現状が明らかになり（図2）、指導に自信がない教員ほどALTに授業を任せているということが分かった（図3）。よって、授業者が言語活動を工夫した授業のイメージを持ち、ALTと協働で授業を進められるようになることが課題である。

以上の課題を解決するための手立てとして、開発研究では言語活動例を作成することとした。言語活動例だけでは伝わりにくい実際の活動の様子を動画として提示し、小学校教員が授業のイメージを持てるようにした。

また、授業づくりを行うには、学習内容の系統性を把握し、単元のゴールを明確にする必要がある。しかし、現状では授業を進めることで精一杯で、系統性を意識するという段階には至っていない。そこで、学習内容の系統性が分かるよう、系統一覧表を作成することとした。さらに、系統性を踏まえて単元のゴールを設定し、段階的に言語活動を配置する単元構成を授業者が理解できるよう、単元指導計画を作成することとした。調査結果においても、授業で必要なものとして単元指導計画が3番目に多かった（図4）。このことから、単元指導計画が授業づくりの手立てになるものと考えらる。

5. 2 開発研究

5. 2. 1 「言語活動例」の作成

授業者が児童の実態に合わせて言語活動を工夫し、実践することができるよう、言語活動例を作成した。本研究では、最終活動の領域を、話すこと〔やり取り〕と話すこと〔発表〕にした。言語活動例の作成に当たっては、児童にとって身近な話題を取り上げ、児童が「やってみたい」と思える場面を設定することや、伝える相手が誰か、目的は何か、どのような場面・状況かを明確にすることに留意した。作成した言語活動例の学習過程（図5）には、学習活動の流れやSmall Talkの例、ALTとの会話例を英語で記載して、ALTも授業の流れや指示が分かるようにした。このことによって、授業者とALTがスムーズに打合せ等を行うことができるものと考えた。

最終活動

5年 行ってみよう国や地域 A案

8 / 8 時間

○旅行客に国の良さを伝えよう

- ・国の代表となつて、旅行客にその国の特色やよさを英語で紹介する。【話すこと [発表]】

○学習過程 (45 分)

段階	学習活動	教師の働き掛け		※指導上の留意点
		担任等	ALT等	
導入 10分	1 Greeting			●準備物 ※デモンストレーションでは、HRTがALTに日本を紹介する場面を行う。必要に応じて、よい例と悪い例の比較をさせてもよい。 ●振り返りシート
	2 Demonstration ALT と HRT のデモンストレーションを聞き、発表のイメージを持つ。	HRT: Welcome to Japan. In this country, you can see Mt. Fuji, Fuji-san in Japanese. It is very high. You can eat sushi. It is delicious. You can buy Senu, Japanese folding fans. It is beautiful. ALT: That sounds nice. What sushi do you like? HRT: I like salmon. ALT: Me, too. I like Japanese foods.		
	3 Today's Goal	おすすめの国について発表しよう。		
	4 Explain how to present 発表方法について	ペアになりましょう。 前半は左側の人が発表します。発表が終わつ	"Make pairs, the left side students will present first. The right	●前時までに作成したポスター

図5 言語活動例の学習過程

5. 2. 2 「模擬授業動画」の作成

授業者が言語活動の工夫をより具体的にイメージできるよう、言語活動の例が分かる模擬授業動画を作成した（図6）。模擬授業動画を見ることで、授業者は言語活動を工夫し、ALT等と効果的にチーム・ティーチングを行えるようになるものと考えた。動画では、Small Talkで教師同士や、教師と児童がやり取りをする場面、言語活動のデモンストレーションを見せる場面、視覚教材を効果的に活用する場面等を示した。ALTが児童に生きた英語に触れさせること、授業者の積極的に英語を使おうとする姿を、動画を通して理解できるように構成した。授業者とALTが役割を明確にして、協働で授業を繰り返すことによって、授業者が授業づくりへの理解を深め、不安を軽減できると考えた。



図6 3年生 Unit 5 最終活動の模擬授業動画

5. 2. 3 「系統一覧表」の作成

小学校外国語活動で使用されている教材や中学校・高等学校外国語科の教科用図書から、言語の使用場面や言語材料等においてつながりのある単元を選択し、一覧表を作成した（図7）。授業づくりに活用できるよう、言語の使用場面、単元名、言語活動、表現例の4項目で構成した。この系統一覧表を活用すると、単元間、学年間、校種間の系統性を把握することができ、児童の発達段階や学習段階を踏まえた系統的な指導を充実させることができる。さらに、小学校外国語活動・外国語科の学習内容を、中学校・高等学校の教員が把握し、小学校から高等学校までの系統的な指導に役立てられるものと考えている。

学年	3年	4年	5年	6年	中学校	高等学校
学習内容の系統一覧表						
◎挨拶や自己紹介をする						
単元名	Unit 1 あいさつをして友達になろう Unit 2 ごきげんいかが？	Unit 1 世界のいろいろなことばであいさつをしよう Unit 2 すきな遊びをつたえよう	Unit 1 アルファベット・自己紹介	Unit 1 自己紹介	中2 Presentation 3 好きなことの	(例)部活動を紹介するポスターを作成
言語活動	◎名前を覚えて挨拶をし合う Hello. Hi. I'm Saki. Goodbye. See you.	◎世界のさまざまな挨拶をしり、挨拶をし合う Hello. Good [morning / afternoon / night]. I like strawberries. Goodbye. See you.	◎簡単な自己紹介をする A: Hello. I'm Saki. Nice to meet you. B: Hello. My name is Koushi. A: How do you spell your name? B: K-o-u-s-h-i. Koushi. A: What sport do you like? B: I like soccer. I want a new ball. A: I see. Thank you.	◎自己紹介で好きなことやできることを伝え合う Hello. I'm from Miyagi. I like soccer. I can play soccer well. My nickname is Ken. What color do you like? I like red. What is your favorite food? I like pasta. When is your birthday? My birthday is August 19th. Thank you.	◎好きなこと・ものについて書く I like soccer the best of all sports. I'm a member of the Midori FC. I like soccer because I can make friends through soccer. Playing soccer with my friends is fun.	
表現例	◎表情やジェスチャーを工夫しながら挨拶をし合う How are you? I'm [happy / fine / sleepy / good / hungry / tired / sad / great].	◎好きな遊びを尋ね合う How's the weather? It's [sunny / rainy / cloudy / snowy]. Let's play cards. Yes, let's. Sorry. Stand up. / Sit down. / Stop. / Walk. / Jump. / Run. / Turn around.				
◎時刻や一日の生活を伝え合う						
単元名	Unit 3 教えてあげよう Unit 4 今、何時？	Unit 4 今、何時？	Unit 4 一日の生活		中1 Presentation 2 一日の生活	(例)好きなスポーツ選手について伝え
言語活動	◎何がいくつあるか数える How many apples? 1-20. That's right. Yes. No. Sorry.	◎好きな時刻を伝え合う What time is it? It's 7:00 a.m. It's [wake-up / breakfast / lunch / bath / dinner / homework / bed / dream] time. I like 3 p.m. I like snacks.	◎一日の生活について伝え合う What time do you get up? I usually [always / never / sometimes] get up at 7:00. I always clean my room [take out the garbage / walk my dog / get the newspaper] at 5:00 p.m.		◎世界の友達・一日の生活について知る Pascal gets up at eight. He goes back home for lunch and has it with his family. He takes a bath and goes to bed at twelve.	
表現例						
◎好きなものを伝え合う						
単元名	Unit 4 すきなものを伝えよう Unit 5 何が好き？	Unit 8 お気に入りの場所をしようかいよう	Unit 1 アルファベット・自己紹介	Unit 1 自己紹介	中2 Presentation 3 好きなもの・こと	(例)自分の学校の好きなところを紹介
言語活動	◎好きな色やスポーツ、食べ物や飲み物を伝え合う Do you like blue? I like blue. Yes, I do. / No, I don't. I don't like blue.	◎学校のお気に入りの場所を紹介する Go straight. Turn [right / left]. Stop. This is the music room. This is my favorite place. Why? I like music.	◎友達に好きなスポーツ等を尋ねたり、自己紹介をし合ったりする A: Hello. I'm Saki. Nice to meet you. B: Hello. My name is Koushi. A: How do you spell your name? B: K-o-u-s-h-i. Koushi. A: What sport do you like? B: I like soccer. I want a new ball. A: I see. Thank you.	What is your favorite sport? I like soccer. I can play soccer well. I am good at running. My birthday is December 25th. Thank you.	◎好きな漫画・スポーツ等について発表する My favorite sport is tennis. I started playing tennis when I was 10 years old. I like tennis because I can make friends through tennis. Playing tennis with my friends is fun.	
表現例	◎好きな色やスポーツ、食べ物や飲み物を尋ねる What sport do you like? I like soccer. What color do you like? I like red. What fruit do you like? I like apples.					
◎ほしいものを伝え合う						
単元名	Unit 7 カードをわくろう Unit 8 カードをわくろう	Unit 7 ほしいものは何かな？ Unit 8 カードをわくろう	Unit 2 行事・誕生日 Unit 3 誕生日	Unit 4 自分たちの町・地域 Unit 5 自分たちの町・地域	中3 Unit 4 To Our Future Generations Unit 5 To Our Future Generations	(例)文化祭でしたいこと、お客さんにし ことを考えて話す
言語活動	◎カード作りによりほしいものや色を伝え合う What do you want? A star, please. Here you are. This is for you. Thank you. You're welcome.	◎カード作りによりほしい野菜や果物を伝え合う What do you want? I want potatoes, please. How many? Two, please. Here you are. Thank you.	◎誕生日にほしいものを伝え合う When is your birthday? My birthday is October 25th. Do you want new soccer shoes? What do you want for your birthday? I want a dog. Happy Birthday.	◎自分の町にほしいものを伝える Aoba town is nice. We have a restaurant. We don't have a big park. I want a big park.	◎人にしてほしいことを伝える I want you to pass on the memories. I want our future generations to play the violins.	
表現例						

図7 系統一覧表

5. 2. 4 「単元指導計画」の作成

単元指導計画（図8）には、単元のゴールに向けて言語活動を段階的に配置していることが分かるよう、以下の内容を明記した。

- (1) 単元のゴール
- (2) 最終活動の表現例
- (3) 主となる言語活動
- (4) 各時間に扱う表現
- (5) 学習内容の系統性

5年 行ってみたい国や地域

(1) 単元前後の学習内容を踏まえて単元のゴールを設定する。

単元指導計画

単元のゴール	紹介する国のよさを知ってもらうため、その国の特色やその国に行きことができることなどを伝えることができる。【話すこと [発表]】
最終活動の表現例	Welcome to India. You can see the Taj Mahal. It is famous. You can eat curry and nan. It is spicy. You can ride an elephant. It is exciting!

○単元計画

時数	本時の目標	主となる言語活動	各時間に扱う表現
1	いろいろな国の特徴を知る。	【Let's Watch & Think ①】 4つの国について、その国の特徴を知る。	〔国の名前〕 Egypt, America, China, Russia
2	外国でできることを知る。	【Let's Watch & Think ②】 インタビューを聞いて、2人が何をしたいのか考える。	〔どの国に行きたいか〕 Where do you want to go? I want to go to (Spain).
3	状態や気持ちを表す表現を知る。	【Let's Watch & Think ③】 映像を見て、国旗や写真、イラストを線で結ぶ。 Interview おすすめの国を選び、発表用ポスターに国名を書く。	〔状態・気持ちを表す表現〕 It's (great/fun/exiting/beautiful).
4	おすすめする理由を考え、書くことができる。	【Let's Watch & Think ④】 ブラジルについて分かったことをメモする。 ポスター作成① You can see~を使って、おすすめ国の紹介をする。	〔おすすめ理由①〕 You can see (Sagrada Familia). It's (beautiful).
5	おすすめする理由を考え、書くことができる。	【Let's Listen】 英語を聞いて、当てはまる国の国旗を丸で囲む。 ポスター作成② You can eat~を使って、おすすめ国の紹介をする。	〔おすすめ理由②〕 You can eat (paella). It's (yummy).
6	おすすめする理由を考え、書くことができる。	【Let's Watch & Think ⑤】 映像を見て当てはまる国の国旗を丸で囲む。 ポスター作成③ You can buy~を使って、おすすめ国の紹介をする。	〔おすすめ理由③〕 You can buy (soccer goods). It's a nice gift.
7	おすすめ国についてまとめることができる。	ポスター作成④ おすすめ国のポスターを完成させる。 Practice ペアで発表の練習を行う。	〔発表〕 Welcome to (Spain). You can see (Sagrada Familia). It is (beautiful). You can eat (paella). It's (yummy). You can buy (soccer goods). It's a nice gift.
8	おすすめ国について発表することができる。	旅行者に国の良さを伝えよう 国の代表となって、旅行者にその国の特色やよさを紹介する	

(2) 最終活動における児童の表現例を明確にする。

(3) 最終活動と効果的に関連付けた中心活動を配置する。

(4) 児童が既習表現を繰り返し活用できるよう、発話する表現を段階的に増やしていく。

段階的に最終活動に向かう

○学習内容の系統性「場所を紹介する」

単元名	4年	5年	5年	6年
	Unit 8 お気に入りの場所を紹介しよう	Unit 6 行ってみたい国や地域	Unit 7 位置と場所	Unit 4 自分たちの町・地域
言語活動	○学校のお気に入りの場所を紹介する	○行きたい国や理由を紹介する	○場所を尋ねたり答えたりして道案内をする	○町にあるもの、ないものを伝える
表現例	This is (the music room). This is my favorite place. Why? I like music. Go straight. Turn (right / left). Stop.	Where do you want to go? I want to go to Italy. Why? I want to see (go to / visit) ~. I want to eat ~. I want to buy ~. It's (exciting / beautiful / great / fun).	Where is the treasure? Go straight for three blocks. Turn (right / left) at the third corner. You can see it on your (right / left). It's (on / in / under / by) the desk.	We have / don't have (a park). We can see ~. We can enjoy ~. I want a (library). ~ is nice.

(5) 単元のゴールを設定する際に、学習内容の系統性を把握する。

図8 5年生「行ってみたい国や地域」単元指導計画

また、単元全体の活動の流れが見通せる活動配列表も作成した（図9）。活動配列表には、1単位時間ごとの活動が示されている。単元終末の最終活動に向けて、中心活動が意図的、段階的に配置され、全ての活動につながりを持たせていることを可視化した。

さらに、開発研究で作成した4つの手立ての活用方法等を「授業づくりガイド」にまとめた（図10）。

活動配列表						
	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時
本時の目標	いろいろな国の特徴を知る。	外国でできることを知る。	状態や気持ちを表す表現を知る。	おすすめする理由を書くことができる。	おすすめする理由を書くことができる。	おすすめする理由を書くことができる。
各時間に扱う表現	【国の名前】 Egypt, America, China, Russia	【行きたい国】 Where do you want to go? I want to go to ~.	【状態・気持ち】 It's (great/fun/exciting/beautiful).	【理由①】 You can see (Sagrada Familia). It's (beautiful).	【理由②】 You can eat (paella). It's (yummy).	【理由③】 You can (soccer). It's a n...
導入 10分	Greeting					
	Small Talk ・ALTが自国で有名な物やできごと等について話す。 ・学級担任が言ってみよう国を紹介する。		Small Talk ・P42-43の国で、行ってみたい国はどこか簡単なやり取りをする。		Small Talk ・教師が外国でやりたいこと、意がおすすめする国を提案する。	
	Today's Goal: 振り返りシートで、単元のめあて・本時のめあての確認をする。					
	世界地図で4つの国の名前と位置を確認する。	【Chant】 Where do you want to go?	国旗Bingo 国旗と国の名前に慣れ親しむ。	【Chant】 Where do you want to go?	【Chant】 Where do you want to go?	【Jingle】 Country
	【Let's Watch & Think ①】 4つの国について	国旗Bingo 国旗と国の名前に慣れ親しむ。	【Let's Watch & Think ②】 映像を見て、国旗	【Let's Watch & Think ③】 ブラジルについて	【Let's Listen】 英語を聞いて、当てはまる国の国	【Let's Think】 映像

図9 5年生「行ってみたい国や地域」活動配列表

Small Talkについて

1. Small Talkを行う目的 (小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック P.84-85より)

- ・既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図ること
- ・対話を続けるための基本的な表現(対話の開始、繰り返し、一言感想、確かめ、さらに質問、対話の終了)の定着を図ること

2. Small Talkの例 (HRT: H, ALT: A, 児童: S)

(例) 6年生「行きたい国と理由を発表しよう」(3/8時間目)

H: ○○-sensei, where do you want to go?
A: I want to go to ... Mm, I'll give you three hints.
It's a quiz!
H: Quiz? OK. Hint, please!
A: I like spicy curry. (「辛い」というジェスチャーをしながら)
H: Spicy curry? One more hint, please!
A: It's in Asia. And you can see Taj Mahal.
H: Is it India?
A: Yes, that's right. I want to go to India.
H: I see. You want to go to India. Good idea!
Everyone, it's your turn. Point 3
A: Let's try "three hint quiz" about the country you want to go to.

3. 行方際に意識すること

Point 1
非言語情報(ピクチャーカード、イラスト、実物、ジェスチャー等)を十分に活用すること

Point 2
既習表現や対話を続けるための表現を活用すること

Point 3
何度も繰り返し聞かせること

Point 4
教師間のやり取りから、教師と児童のやり取りへ、そして児童同士のやり取りへ広げること

図10 授業づくりガイドより

6 実践検証

6. 1 実践の概要

3校の研究協力校において、研究員の作成した手立てを基に、担任が中心となって単元を通した授業実践を行った。使用教材は、文部科学省より発行されているLet's Try! 1(第3学年)、Let's Try! 2(第4学年)、We Can! 1(第5学年)、We Can! 2(第6学年)である。実践した単元は以下のとおりである。

表2 研究協力校における実践内容

() 内の数字は単元の総時数

学年	学校名・単元名	
	登米市立石越小学校	大崎市立三本木小学校 石巻市立貞山小学校
3年	Unit 5 What do you like? (4)	Unit 5 What do you like? (2)
4年	Unit 4 What time is it? (4) Unit 5 Do you have a pen? (4)	Unit 4 What time is it? (2) Unit 5 Do you have a pen? (2)
5年	Unit 4 What time do you get up? (8) Unit 6 I want to go to Italy. (8)	Unit 5 What time do you get up? (4) Unit 2 When is your birthday? (4)
6年	Unit 4 I like my town. (8)	Unit 5 My Summer Vacation (4)

これらの実践のうち、以下の2つの実践内容を例として示す。

(1) 話すこと(発表)の実践 第5学年 We Can!1 Unit4 「What time do you get up? 一日の生活」

① 指導の概要

この実践では、研究員が学習内容の系統性を踏まえて単元指導計画を作成し、授業者はそれを基に授業を進めた。最終活動は、自分の一日の生活について発表することであり、それに向けて、単元全体を見通して段階的に言語活動を設定した。一日の生活を伝え合うことで、友達の生活や家で

の役割等を知ることができ、自分自身との違いを知る機会になることが考えられる。

② 系統性を踏まえた言語活動の設定

本単元は、第3学年「何がいくつあるか数える」言語活動と第4学年「好きな時刻を伝え合う」言語活動と学習内容の系統性がある（表3）。また、中学校では「世界の友達の一日の生活について知る」言語活動と系統性があり、言語材料を更に増やしてやり取りや発表をさせたり、書くことの言語活動に発展させたりすることができる。

表3 第5学年 「一日の生活」 学習内容の系統性

	3年	4年	5年	中学校
単元名	Unit 3 数えてあそぼう	Unit 4 今、何時？	Unit 4 一日の生活	中 1 Presentation 2 一日の生活
言語活動	○何がいくつあるか数える	○好きな時刻を伝え合う	○一日の生活について伝え合う	○世界の友達の一日の生活について知る
表現例	How many apples? 1~20. That's right. Yes. No. Sorry.	What time is it? It's (8:30). It's ~ time. I like 3 p.m. I like snacks.	What time do you get up? I usually get up at 7:00.	Pascal gets up at eight. He goes back home for lunch and has it with his family. He takes a bath and goes to bed at twelve.

本単元の言語活動では、第3学年で学習した数字、第4学年で学習した時刻の言い方等の既習表現を、異なる言語の使用場面で活用することができる。第4学年では時刻を尋ねる場面で、“What time is it?” を使用したり、“I like snack time.” 等で好きな時間を答えたりした。第5学年では、何時に何をするのか尋ねる場面で、“What time do you get up?” 等の表現に発展する。互いの一日の生活を伝え合う場面で既習表現を活用し、思考力・判断力・表現力等が高められる。

③ 単元指導計画を作成した手順

研究員が学習内容の系統性を踏まえて単元のゴールを設定し、単元を以下のように構成した。

ア 学習内容の系統性を確認

第3学年Unit3では「数を尋ね合う言語活動」、第4学年Unit4では「好きな時刻を尋ね合う言語活動」を行っていることから、本単元ではその既習表現を活用した言語活動を設定することができ、学習内容の系統性がある。

イ 単元のゴールを設定

「友達と自分の違いを知るために、自分の一日の生活について伝え合うことができる」こととした。

ウ 最終活動の設定

最終活動は、自分と友達の日課や役割の違いに気付くために、ワークシート等を見せながら、一日の生活について学級全体で発表させることとした。最終活動での児童の発話例は、“I always get up at six. I sometimes go to bed at ten.” 等とした。

エ 中心活動等の設定

チャンツ等で日課や頻度の表現に慣れる段階から、自分のことを伝え合ったり、家での役割を伝え合ったりする中心活動を設定し、最終活動に向けて児童が無理なく表現に慣れ親しむことができるようにした。発表に向けて自分の一日の生活をワークシートにまとめ、発表する学習形態を、ペア、グループ、学級へと段階的に設定し、児童が自信を持って最終活動に取り組むことができるようにした。

(2) 話すこと（やり取り）の実践 第5学年 We Can! Unit2 「When is your birthday? 行事・誕生日」

① 指導の概要

この実践では、研究員が学習内容の系統性を踏まえて複数の最終活動を提案した。相手を特定してやり取りをするA案と、学級全体の児童とやり取りをするB案の2つの案から、児童の興味・関心や発達段階に合致しているA案を授業者は選択した。授業者は、カードを渡す相手とのやり取り

を通して、その相手を意識してバースデーカードを作成させたいという願いから、最終活動を設定した。友達の好きなもの等の絵やメッセージが入ったバースデーカードを渡すために、誕生日と、好きなもの等を尋ね合うやり取りを行うことが最終活動である。最終活動に向けて、授業者が1時間ごとに活動を段階的に配置し、単元のゴールに向けて言語活動を工夫した。

② 系統性を踏まえた言語活動の設定

本単元は、第3学年「欲しい形や色を伝え合う」言語活動と第4学年「欲しい野菜や果物を伝え合う」言語活動と学習内容の系統性がある（表4）。また、第6学年では「自分の町に欲しいものを伝える」言語活動と系統性がある。言語の使用場面が、「自分」「相手」「町」と徐々に広範囲になっていく。

表4 第5学年 「行事・誕生日」学習内容の系統性

	3年	4年	5年	6年
単元名	Unit 7 カードをおくろう	Unit 7 ほしいものは何かな？	Unit 2 行事・誕生日	Unit 4 自分たちの町・地域
言語活動	○カード作りに欲しい形や色を伝え合う	○オリジナルピザ作りにほしい野菜や果物を伝え合う	○誕生日に欲しいものを伝え合う	○自分の町に欲しいものを伝える
表現例	What do you want? A star, please. Here you are. This is for you. Thank you. You're welcome.	What do you want? I want potatoes, please. How many? Two, please. Here you are. Thank you.	When is your birthday? My birthday is ~. What do you want for your birthday? I want a soccer ball. Happy Birthday.	~ town is nice. We have a restaurant. We don't have a big park. I want a big park.

本単元の言語活動では、第3、4学年で好きなもの、欲しいものを尋ね合った既習表現を、異なる言語の使用場面で活用することができる。第4学年では欲しいものを尋ねる言語活動において、“What do you want?”を使用し、“I want potatoes.”等で自分が欲しいものを伝えた。第5学年では友達が誕生日に欲しいものを尋ねる言語活動において、“What do you want for your birthday?”という表現に発展する。バースデーカードを作成するために、友達に欲しいものを尋ねる場面で既習表現を活用し、思考力・判断力・表現力等が高められる。また、相手が好きなもの、欲しいものを絵で描いてオリジナルのバースデーカードを作るという目的を設定したことによって、好きな物を尋ね合う最終活動に必然性を持たせた。

③ 単元指導計画を作成した手順

授業者が単元のゴールを明確にし、単元を以下のように構成した。

ア 学習内容の系統性を確認

第3学年Unit7、第4学年Unit7では、「欲しいものを伝え合う言語活動」を行っていることから、本単元ではその既習表現を活用した言語活動を設定することができ、学習内容の系統性がある。

イ 単元のゴールを設定

「バースデーカードを作成するために、誕生日や欲しいもの、好きなもの等を伝え合うことができる」こととした。

ウ 最終活動の設定

最終活動は、バースデーカードを作成するために、誕生日や誕生日に欲しいもの、好きなもの等を友達と尋ね合うこととした。最終活動で児童が目指す発話例は、“When is your birthday?” “My birthday is December 25th.” “What do you want for your birthday?” “I want a game.”等とした。

エ 中心活動等の設定

チャンツ等で月や日にちの言い方に慣れる段階から、誕生日を伝え合ったり、誕生日に欲しいものを伝え合ったりする中心活動を設定し、最終活動に向けて児童が無理なく表現に慣れ親しむ

ことができるようにした。最終活動で使用する表現だけでなく、中心活動で既習表現を繰り返し学習できるよう設定した。

6. 2 実践検証の結果

6. 2. 1 児童の変容

授業実践後に児童に行ったアンケート結果では、65.3%の児童は、「以前より英語で自分の思いや考えを伝えることができるようになった」と回答し、62.9%の児童は、「以前より英語で発表することに自信を持つことができた」と回答した（図11）。このように児童が変容した要因を、実践検証における児童の振り返りシート、授業者の見取り、研究員による授業分析で検証した。また、振り返りシートの自由記述の特徴を捉えるために、児童の記述をテキストマイニング分析^{注5)}した。振り返りシートのテキストマイニング分析は、児童の認知行動を捉える分析方法の一つとして用いられている²⁾。

第5学年「一日の生活」における振り返りシートの分析によると（図12）、「言える」「英語」「生活」「発表」という記述が多かった。振り返りシートには、「日常の生活についてしっかりと英語で言えるようになった」等、発表に関する記述が多かった。既習表現を何度も繰り返し活用する場面が設定されていたことで、児童が最終活動で自信を持って発表できたと実感していたことが分かる。また、「笑顔、目線、はっきり言うことを意識して発表できた」等、相手に伝わるように工夫して発表できたことが分かる記述もあった。次に、「伝える」「自分」「友達」という記述が多かった。振り返りシートには「友達がどのような生活をしているのかも英語で知ること

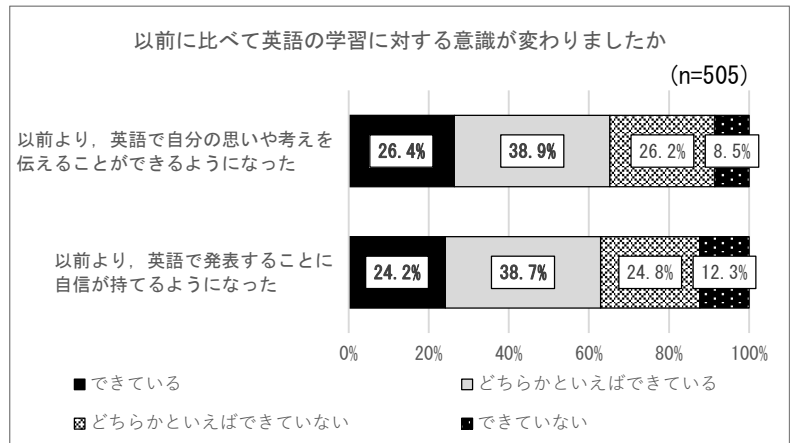


図11 学習後の児童の意識の変化

抽出語	出現回数
言える	64
英語	56
生活	48
発表	45
伝える	24
自分	21
友達	19
分かる	17
少し	15
覚える	14
時刻	13
知る	13
言う	12
時間	12
難しい	12
言い方	10
声	10

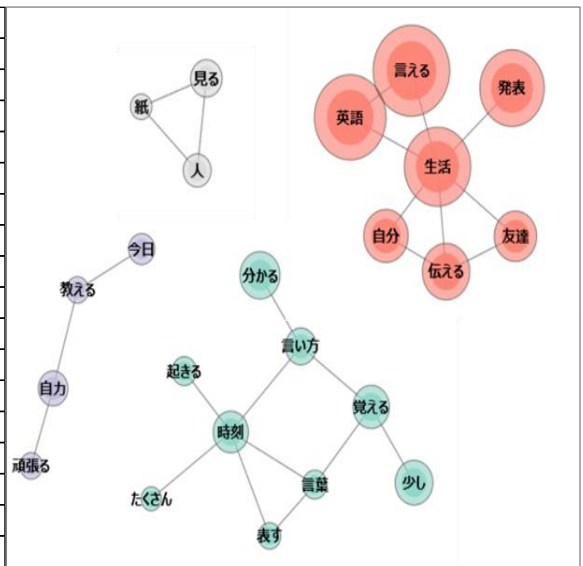


図12 児童146名（3校）の振り返りシートに出現した頻出語とその共起関係を示すネットワーク

抽出語	出現回数
誕生日	78
言える	68
自分	42
月	34
友達	32
バースデーカード	31
英語	23
言い方	22
聞く	21
好き	15
日付	15
書く	14
難しい	13
言う	12
楽しい	10
知る	10
欲しい	10

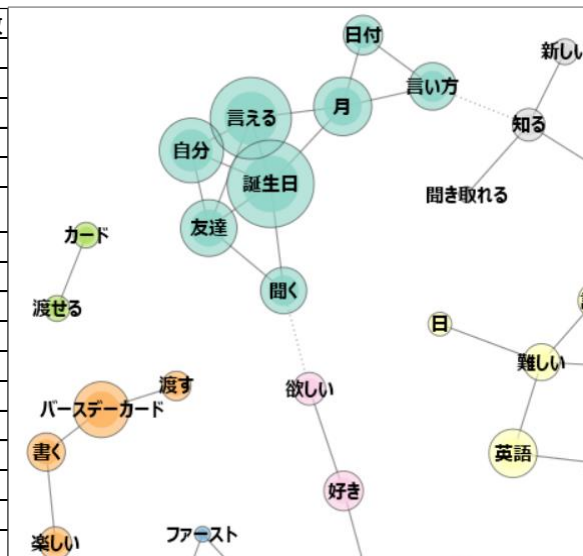


図13 児童107名（2校）の振り返りシートに出現した頻出語とその共起関係を示すネットワーク

注5) テキストマイニング分析とは、文字テキストデータを単語や文節に切り分け、出現頻度や相関関係等を中心として情報を取り出す分析方法。

ができて良かった」等、聞き手の児童が相手のことを知ろうとしている記述もあった。以上のことから、授業者と児童が単元のゴールを共有し、見通しを持って授業に臨んだことが、児童の変容につながったものとする。

第5学年「バースデーカードを贈ろう」における振り返りシートの分析によると（図13）、「誕生日」「言える」「自分」という記述が多く、これらの記述は「友達」「月」「言い方」「聞く」と共起していた。振り返りシートには、「自分の誕生日が言えるようになり、友達の誕生日も聞き取ることができました」等、単元を通してできるようになったことを、児童が実感していることが分かる記述が多かった。また、「誕生日」と「友達」、「バースデーカード」と「書く」「渡す」「楽しい」の共起関係が強かった。振り返りシートには、「友達に好きなものや欲しいものを聞いて、バースデーカードを作ることができて嬉しかった」等の記述が見られた。以上のことから、「バースデーカードを作成するためにやり取りをする」という明確な目的があったことで、児童は相手や目的を意識して言語活動に主体的に取り組むことができたものとする。

授業者の事後アンケートにおいて「児童は英語で自分の思いや考えを伝えようとしていた」「児童は英語で友達の思いや考えを知ろうとしていた」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した教員は15名中12名だった（表5）。具体的な授業者の感想は以下のとおりである（表6）。

表5 授業実践における教員による児童の見取り (n=15)

	肯定的な回答 (人)	否定的な回答 (人)
児童は英語で友達に自分の思いや考えを伝えようとしていた	12	3
児童は英語で友達の思いや考えを知ろうとしていた	12	3
児童は単元のゴールを意識して活動していた	11	4

表6 実践後の児童の様子についての授業者の感想

- ・習った表現を使って友達とやり取りするときの表情が楽しそうだった。
- ・積極的に英語を使わない児童が口に出して使うようになってきた。
- ・題材が児童に親しみのあるものだったことから、意欲的に学習する児童が多く見られた。
- ・英語を使おうとする児童が増えた。自分から進んでALTや友達、担任と関わろうとしていた。
- ・問いかけに対する反応が普段より多かった。普段あまり挙手しない児童も発表していた。
- ・ALTが話したことをよく聞き取ろうとする姿が見られた。
- ・以前に比べると児童が時間ごとに何をすべきか把握し学習に取り組めた。

授業者の事後アンケートの結果、及び具体的な感想から、実践前と実践後で児童が大きく変容したことが分かる。学習内容の系統性を踏まえた言語活動を設定したことによって、既習表現を繰り返し活用し、児童は自信を持って言語活動に取り組むことができた。また、伝える相手、目的、場面・状況を明確にした言語活動が設定されていたことにより、主体的に言語活動に取り組むことができた。さらに、授業者が単元のゴールを明確にし、それを児童と共有して授業づくりを行ったことにより、児童は見通しを持って授業に臨むことができた。

6. 2. 2 教員の変容

授業者への事後アンケートによると、15名中12名の授業者が「言語活動

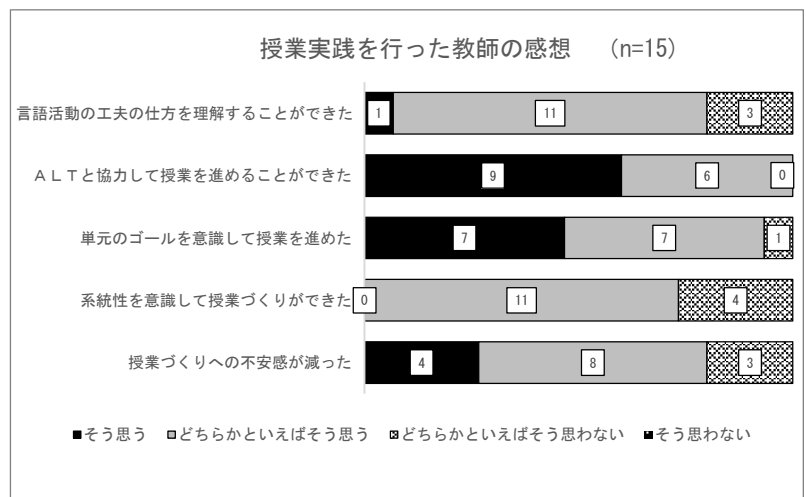


図14 授業後の教師の感想

の工夫の仕方が理解できた」と回答し（図14），全ての授業者が今後は実践できそうだと回答した（図15）。また，全ての授業者が「ALTと協力して授業を進められた」と回答し，14名の授業者は「今後もALTと協力して進めること」に前向きな姿勢を示していた。具体的な授業者の感想は以下のとおりである（表7）。

表7 言語活動についての授業者の感想

- ・言語活動について理解が深まった。
- ・苦手意識のある児童も友達に伝えることができていた。
- ・ALTや担任，友達と積極的にコミュニケーションをしようとしていた。
- ・やってみたくと思わせる場面設定を工夫していきたい。
- ・ALTとどう会話をするのか，どの程度の英語を使うのかが分かった。
- ・Small Talkの良さが分かった。児童がALTとの質問に答えようとする姿が多く見られるようになった。

言語活動例や模擬授業動画を活用し，授業のイメージを持って授業実践を行ったことによって，言語活動を工夫した授業づくりを理解できた授業者が多かった。また，授業のイメージを持ち，デモンストレーションやSmall Talkを繰り返し実践することで，ALTと協働で授業を進めることに対して肯定的な回答が得られた。また，12名の教員が「授業づくりに対する不安が減った」と回答した。このような回答が得られたのは，本研究の提案を基

に言語活動を工夫して，授業実践を繰り返した結果，単元全体を見通して授業を進めることや，ALTと協働で授業を進めることができたためと考える。

「単元のゴールを意識して授業できたかどうか」についても14名の授業者が肯定的に回答し（図14），「今後も実践できそうだと回答している（図15）。具体的な授業者の感想は以下のとおりである（表8）。

表8 授業づくりについての授業者の感想

- ・児童が単元のゴールを見通して，今どのような活動をしているのか考えながら，必要なスキルを身に付けていた。
- ・担任が単元のゴールを意識して指導を行ったことで，児童も以前に比べると時間ごとに何をすべきか把握して学習に取り組めた。
- ・単元のゴールに向けて段階的に活動を配置していくことが分かった。
- ・児童が単元のゴールを目指して1時間で覚えなければならないことをやろうとしていた。

単元のゴールを明確にすることで，より効果的な中心活動や最終活動の内容，及び配置を考えて，単元構想ができることが分かった。単元のゴールに向けて，1単位時間の目標や授業内容を考えるためには活動配列表も有効であったと考える。

一方で，単元間や学年間のつながりを意識して授業づくりをすることについては，否定的な回答をする授業者が，他の項目に比べると多かった。そこで，学習内容の系統性を踏まえた言語活動について更に研究を進め，系統一覧表を活用した授業をより具体化していく必要があると考える。

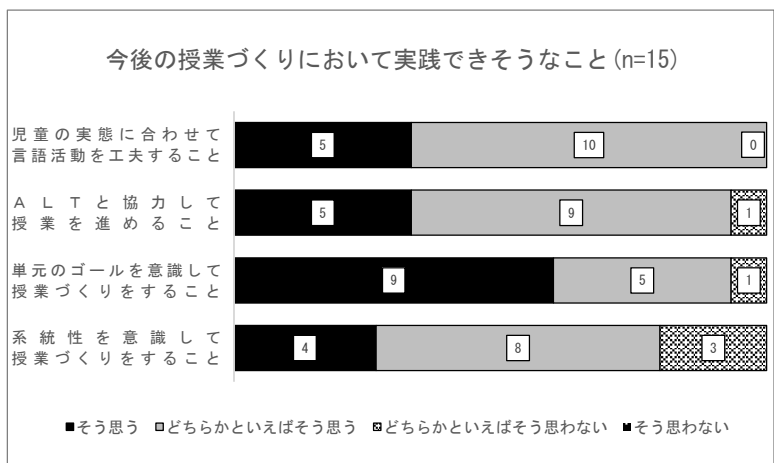


図15 今後実践できそうなこと

7 研究のまとめ

7. 1 研究の成果

本研究では、調査研究で得られた課題に基づき、開発研究を行ったことで、学習内容の系統性を踏まえた言語活動について具体的にイメージの持てるような授業づくりを提案した。その結果、授業者は言語活動を工夫した外国語活動・外国語科の授業づくりへの理解を深め、指導に対する不安を軽減することができた。また、自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の姿が見られるようになった。具体的には以下のとおりである。

- (1) 授業者は、言語活動例や模擬授業動画を参考として、児童の実態に合わせて既習表現を繰り返し活用できる言語活動を配置し、授業づくりの充実を図った。その結果、慣れ親しんだ表現を活用し、自信を持って自分の思いや考えを伝え合う児童の姿が見られた。
- (2) 授業者が単元指導計画の作成を通して単元のゴールを明確にすることにより、単元全体を見通した授業づくりを意識することができた。また、最終活動に向けて1時間ごとの中心活動を効果的に関連付けた単元構成ができるようになった。授業者が単元のゴールを明確にすることによって、児童も見通しを持って授業に臨むことができた。
- (3) 授業者が伝える相手、目的、場面・状況を明確にした言語活動の重要性について理解を深めることができた。これによって、これまでは児童が楽しむだけの活動が中心だった授業が、児童が主体的に言語活動に取り組める授業へと改善された。その結果、相手に伝わるように工夫しながら話したり、相手の考えを積極的に知ろうとしたりする児童の姿が見られた。

7. 2 今後の課題

今年度明らかになった課題と、次年度に向けた方向性については以下のとおりである。

- (1) 系統性を踏まえた言語活動を授業者が児童の実態に合わせて選択し、単元のゴールを明確にして授業づくりをすることについては成果が上がった。しかし、授業者自身が系統一覧表を活用して単元のゴールを設定する段階には至らなかった。本研究で開発を進めてきた授業づくりを、研究員が年間を通して実践し、系統一覧表を活用した授業づくりの具体を深めていく必要がある。それによって、児童が自分の思いや考えを伝え合うことができるか検証していきたいと考える。
- (2) 本研究では、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕の領域で実践検証を進めてきた。年間を通して実践するということは、書くことの領域も含まれる。そこで、聞くこと、話すことの領域で学習した内容と、書くことの領域で学習した内容の系統性を踏まえて言語活動を設定し、系統一覧表の充実を図っていきたいと考える。
- (3) 本研究では、「自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成」を目指して研究を進めてきた。今後は、伝え合うことができる児童の捉えを更に深める必要があると考える。そこで、伝え合って得られた情報に対して相手に質問をしたり、感想を伝えたりできる児童の姿を目指していきたい。
- (4) 本研究で見られた児童の変容を宮城県内の多くの教員が実感し、小学校外国語活動・外国語科の授業づくりに対する理解を深められるようにする必要がある。開発した手立てを校内外の研修等で小学校教員に広く周知し、授業づくりに活用してもらうことが重要である。

主な参考文献

- 1) 滋賀県総合教育センター. 児童が主体的にコミュニケーションを図る授業づくり-小・中学校の系統的な学習を踏まえた言語活動の充実を通して-. 研究員派遣による学校支援に関する研究 2019, p. 2
- 2) 板垣信哉. 鈴木渉. 他 英語活動における「振り返り」の実証的研究-第二言語習得の観点に基づいて-小学校英語教育学会誌. 2016, p. 212-227

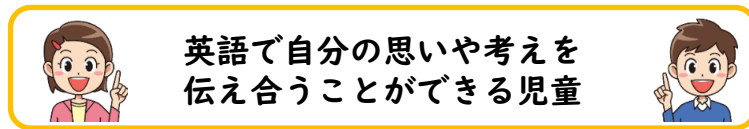
研究協力校

石巻市立貞山小学校

大崎市立三本木小学校

登米市立石越小学校

4 研究構想図（別紙）



研究主題

英語で自分の思いや考えを伝え合うことができる
児童の育成を目指す外国語活動・外国語科の授業づくり
－ 学習内容の系統性を踏まえた言語活動の工夫を通して－

有用性の検証と改善

研究目標

学習内容の系統性を踏まえた言語活動について研究を進め、
授業づくりを提案することによって、外国語活動・外国語科の授業の充実を図り、
自分の思いや考えを伝え合うことができる児童を育成する

開発研究

①言語活動例

+

②模擬授業動画

- ・言語活動例を学習過程と動画で提示
- ・言語活動を工夫した授業のイメージやALT等との効果的なTTの具体を示す
- ・伝える相手、目的、場面・状況を明確にした言語活動例を提案

模擬授業		4年 初めての外国語活動・外国語科 1年 8月 10日
○進行表に記述の書きかえをしよう ①目的を明らかにして、進行表にその目的や場面・状況を記述する。【目的】 ②学習過程（45分）		
過程	学習活動	教師の書きかえ （目的・場面・状況）
1 Greeting	ALT: Welcome to Japan. In this country, you can see Mt. Fuji. Fuji is in Japan. It is very high. You can see it. It is delicious. You can buy Sushi, Japanese food. It is delicious. ALT: That sounds nice. What sushi do you like? ALT: I like salmon. ALT: Me, too. I like Japanese food.	①目的を明らかにして、進行表にその目的や場面・状況を記述する。【目的】 ②学習過程（45分）
2 Demonstration	ALT: Welcome to Japan. In this country, you can see Mt. Fuji. Fuji is in Japan. It is very high. You can see it. It is delicious. You can buy Sushi, Japanese food. It is delicious. ALT: That sounds nice. What sushi do you like? ALT: I like salmon. ALT: Me, too. I like Japanese food.	①目的を明らかにして、進行表にその目的や場面・状況を記述する。【目的】 ②学習過程（45分）
3 Today's Goal	①目的を明らかにして、進行表にその目的や場面・状況を記述する。【目的】 ②学習過程（45分）	①目的を明らかにして、進行表にその目的や場面・状況を記述する。【目的】 ②学習過程（45分）
4 Explain how to answer	①目的を明らかにして、進行表にその目的や場面・状況を記述する。【目的】 ②学習過程（45分）	①目的を明らかにして、進行表にその目的や場面・状況を記述する。【目的】 ②学習過程（45分）
5 Demonstration	①目的を明らかにして、進行表にその目的や場面・状況を記述する。【目的】 ②学習過程（45分）	①目的を明らかにして、進行表にその目的や場面・状況を記述する。【目的】 ②学習過程（45分）



③系統一覧表

+

④単元指導計画

- ・小学校から高等学校までの学習内容の系統性を示した一覧表
- ・単元のゴールや最終活動の表現例、各時間の主となる言語活動を明記
- ・全時間の活動の配列を可視化

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
単元	1. 自己紹介 2. 家族 3. 学校 4. 趣味 5. 食べ物 6. 動物 7. 植物 8. 自然 9. 文化 10. 社会	1. 自己紹介 2. 家族 3. 学校 4. 趣味 5. 食べ物 6. 動物 7. 植物 8. 自然 9. 文化 10. 社会	1. 自己紹介 2. 家族 3. 学校 4. 趣味 5. 食べ物 6. 動物 7. 植物 8. 自然 9. 文化 10. 社会	1. 自己紹介 2. 家族 3. 学校 4. 趣味 5. 食べ物 6. 動物 7. 植物 8. 自然 9. 文化 10. 社会	1. 自己紹介 2. 家族 3. 学校 4. 趣味 5. 食べ物 6. 動物 7. 植物 8. 自然 9. 文化 10. 社会	1. 自己紹介 2. 家族 3. 学校 4. 趣味 5. 食べ物 6. 動物 7. 植物 8. 自然 9. 文化 10. 社会

単元指導計画
単元指導計画

調査研究

児童と小学校教員への意識調査、分析

児童の実態と教員の現状



〔児童〕

- ・児童の7割が「英語が好き」と回答。
- ・児童のコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されている。
- ・児童の聞く、話す力が伸びている。



〔教員〕

- ・指導に自信がない。
- ・ALT等に指導を任せてしまう。
- ・創意工夫ある授業の実践はまだ十分とは言えない。

新学習指導要領

外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの
言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる
資質・能力を育成すること

みやぎの英語教育推進計画

〔小学校を中心とする取組〕

- ・児童の興味・関心を大切にした学習活動の設定

〔小中高共通の取組〕

- ・「身に付けたい力」を明確にした単元づくり
- ・児童生徒の発達段階や学習段階を十分踏まえた**系統的な言語活動**の設定